



市民病院

ハナちゃん通信

問 市民病院管理課
☎ (48) 5050

11月14日は世界糖尿病デーです



糖尿病が原因で亡くなる人を少しでも減らそうと、病気の予防や治療継続を呼びかけるキャンペーンが世界中でおこなわれます。キャンペーンでは、一致団結して糖尿病と闘おうという意味をこめ、青い円（ブルーサークル）をシンボルマークとして用い、シンボルカラーの青色で歴史的な建造物をライトアップする取り組みもされています。

日本では、11月14日を含む1週間を「全国糖尿病週間」とし、例年各地で講演会や健康相談などが行われるほか、病院や城跡などがライトアップされています。

今年度、市民病院では新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、イベントや講演会は行いませんが、毎月1回の糖尿病教室は開催しています。10月は以下の教室を開催します。

糖尿病教室

「食事療法 炭水化物は敵？味方？」

とき 10月26日(月)

14時～16時

ところ 市民病院講義室

対象 市民病院の診察券を持つ人

定員 10人程度

参加費 500円

申込み 不要

問 市民病院管理課総務係 ☎ (48) 5050



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内
市史資料調査室
☎ (41) 4566

No.77 鷺塚湊と矢作川(3)

矢作川流域の幕府領には70か村ほどの村があり、村には下流から川船で運ばれて来た荷物を陸揚げしたり、逆に下流に送る荷物を船積みする川湊（土場）がありました。上流の村々から鷺塚湊へ川船で年貢米を運びましたが、川船に荷物を積み、土場から船を出すことを「津出し」と言いました。村ごとに「津出し」する土場は決められており、年貢米は特に濡らさぬよう鷺塚湊まで運ばれました。

上流の主な土場には矢作、八丁（以上岡崎市）、挙母、越戸、九久平（以上豊田市）などがありました。土場から遠い奥三河の村では、土場までは馬の背に年貢米を載せ、いくつも山を越えて運んでいました。現在の長野県境となる津具村（設楽町）、稲橋村（旧稲武町）の年貢米も川船で鷺塚湊まで運ばれていました（『新修豊田市史』・資料編）。

寛政2年（1790）の「片山家川岸蔵屋敷絵図」には、鷺塚湊に3棟の蔵屋敷が確認できます。年貢米は片山家の蔵屋敷へ一旦納められ、その後、鷺塚湊

で大型廻船に移されると、次は太平洋航路で江戸へ運ばれていきました。川船は平底の細長い船ですが、廻船（海船）は波を切るため船底がV字型、船体はズンぐり型でした。

江戸への航路は、三河湾を出るまでは南へ向かい安乗（三重県志摩市）を経たあたりから東へ向きを変え、遠州灘、伊豆半島、浦賀を経由し30日ほどで江戸湾へ入りました。

江戸時代中ごろまでは、沿岸の山や岬を目印に進み、夜は湊で停泊しました。しかし、中期以降、磁石や星の位置から航海できることがわかると、沖乗りといって、夜間でも航海を続けたので、江戸までは10日前後の航海となりました。



△矢作川と鷺塚湊絵図（遍照院蔵）